

編集後記

2011年8月、私は沼口博教授（大東文化大学）とフィンランド、スウェーデンの職業教育・訓練の調査に出かけた。職業教育・訓練制度が両国では急速に変化している、その改革が進められている時期であった。とりわけスウェーデンでは、高校職業教育改革（GYM2011）が2011年9月からの実施される直前であり、新聞紙上においても、その是非が議論されていた。政策意図とは裏腹に、親は自分の子供を大学に進学させたいという傾向がますます強まり、職業プログラムに志願者が集まらない状況が生まれていた。コミュニンの成人教育機関であるKOMVUXも2012年9月から実施される大きな改革（VUX2012）を控えて、混乱している様子が訪問先のKOMVUXの校長先生への聞き取りからうかがえた。これらの動向については、『日本産業教育学第52回大会要旨集録』（宇都宮大学）の「北欧における職業教育・訓練の最近の改革動向について—フィンランドとスウェーデン—」（57ページから58ページ）を参照していただきたい。北欧の職業教育・訓練についての共同研究は、本研究室の中心的な課題として今後進めていく予定である。本号に掲載したアンダーシュ・ニルソン教授の論文は、私たちが2011年8月にルンド大学で開催した、第1回日瑞職業教育・訓練シンポジウムにおいて、報告されたものである。このシンポジウムは、第2回を2012年8月25日に再びルンド大学で開催することを予定している。その後、アンダーシュ・ニルソン教授は、同年9月より3ヶ月間、名古屋大学教育学部において客員教授として滞在されることになっている。

本号には、ロシアの研究者からの論考を3本、イスラエルの研究者からの論考を1本掲載した。昨年10月にヤロスロバリ大学に、今年6月にブリャート大学に、今年11月にはモスクワ教育大学に、私は元小学校教諭の松本達郎氏とともにそこで開催された国際会議に出席した。これらの国際会議で知り合ったロシアの研究者や、イスラエルの研究者に依頼し、投稿していただいた論考である。ロシア語の論文の1つは、1958年からロシアで発行されてきた『学校と生産』誌の編集者から寄せられたものである。これらの会議に前後して、ロシアの学校や学習生産コンビナートなどを見学する機会を提供していただき、ロシアにおけるこの分野の教育の実態を把握することができた。これらの会議には、普通教育における技術教育（テクノロジー）の担当教師・研究者と職業教育・訓練の研究者や現場教師が参加している。もちろん、それぞれの分野の独自の問題があるが、両方の分野を関連させて捉えることの重要性を痛感させられた。普通教育における技術教育の問題も、将来の職業教育・訓練（企業内教育も含めて）の基礎として、その内容を構想することが重要であるという示唆を得た。日本の技術教育の改革もその視点が求められている。ロシア語の論文の翻訳については、第7号に掲載したロシア語の論文の日本語訳を1本掲載することができた。日本語訳を今後も進めていく予定であるが、遅々とした作業になるので、今回のロシア語の3本の論文のうち、1本については英訳もあわせて投稿していただいた。